

在宅医療、連携を模索

潟上市と南秋田郡 医師、看護師ら合同研修



約200人が在宅医療の推
進に向け学んだ研修会

潟上市と南秋田郡の医療、福祉施設が連携して高齢者の在宅医療に取り組む合同研修会が28日、同市飯田川の八郎潟ハイツで開かれ、医師や看護師、ケアマネジャーら約200人が出席した。同市の小玉医院在宅医療連携拠点事業所の主催。

同医院は本年度、国の「在宅医療連携拠点事業」交付金を受けて老人施設やグループホームなどと連携し▽患者の情報共有▽施設マップ作り▽在宅医療の普及啓発活動などを実施。研修会は、各施設の職員がよりよい連携の在

り方を話し合おうと開いた。同医院の小玉敏央院長が「高齢者が住み慣れた自宅で介護を受け、最期を迎えられる体制づくりが今後欠かせない。よりよい連携の在り方を模索したい」とあいさつ。同医院が中心となって作った、地域の施設別マップや各施設のデータを集めたホームページなどを紹介した。

昨年度から同事業に取り組んできた別府市医師会訪問看護ステーション（大分県）の安東いつ子管理者が講演し、「各種施設が垣根を越え、情報を共有して研修することで

県央

男鹿支局
☎ 0185-23-2303
FAX 0185-23-2880

南秋田支局
☎ 018-888-1840
FAX 018-823-2080

本荘支局
☎ 0184-24-3122
FAX 0184-24-3124

職員の意欲や技術が向上し、患者を地域全体で支える意識が生まれている」と事例を発表した。
(佐藤辰)